

## 燕市ゼロカーボンシティ宣言

－「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指すことを表明－

燕市は、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指すことを令和4年第2回燕市議会定例会の鈴木力市長所信表明で、表明しました。

燕市の発展を支え続けてきた大河津分水が通水100周年を迎える本年を契機に、次の100年に向けた新たな成長の礎となるよう、脱炭素社会の実現と環境負荷の軽減に向けて取り組みを進めます。

### 【概要】

1. 表明日：令和4年6月14日（火） 所信表明

2. 宣言文：別紙のとおり

3. これまでの主な脱炭素の取り組み

- ・ 一般廃棄物最終処分場跡地の太陽光発電施設誘致
- ・ 燕子ども応援 おひさまプロジェクト～太陽光発電「屋根貸し」事業～
- ・ 防犯灯LED化 ESCO 事業
- ・ 公共施設照明設備LED化 など



太陽光発電施設（燕市上河原）

4. 当面の主な脱炭素の取り組み

- ・ 太陽光発電の拡充（太陽光発電施設誘致、家庭用太陽光発電の普及）
- ・ 小風力による再生可能エネルギーの活用可能性調査
- ・ 市内事業者のカーボンニュートラル等への取り組み支援
- ・ 公園灯などのスマートライティング（LED照明灯）化 など

本件についてのお問い合わせ先  
市民生活部 生活環境課：石川  
電話：0256-77-8167（直通）

## 燕市ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地で猛暑や豪雨など、地球温暖化が原因と考えられる異常気象による災害が多発しており、このままでは人々の生命や財産、生態系に甚大な影響が及ぶことが懸念されることから、地球温暖化対策の推進が求められています。

2015年度に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、この目標達成に向け、我が国も2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことを宣言しました。

燕市は、日本を代表する金属洋食器及び金属ハウスウェア製品などの主要産地であるとともに、日本さくらの名所100選の”大河津分水桜並木”や霊峰弥彦山に連なる国上山、名僧”良寛”が暮らした「五合庵」や幕末から明治にかけて有能な人材を数多く輩出した日本有数の私塾「長善館」ゆかりの地として、産業・自然・歴史が調和を図りながら発展してきたまちです。私たちはこのかけがえのないふるさとを後世に残していかなければなりません。

本年は、燕市の発展を支え続けてきた大河津分水が通水100周年を迎えます。市は、次の100年に向けて新たな成長の礎となるよう、脱炭素社会の実現と環境負荷の軽減を推進するための様々な事業を進めていくとともに、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指して、その実現に向けて取り組みを着実に進めて行くことを宣言します。

令和4（2022）年6月14日

燕市長

鈴木カ

